



圖解

量地指南後編

一

41  
726  
1



明奴  
卷 426  
卷 1-5



量地指南後篇序  
嗚乎天地之道尚德而右功  
算數以功之所由起也故古聖  
人列之六藝豈可忽之乎勢  
南源昌弘為人博厚其才敏  
捷銳意算數焦思斲之窮日之

量地指南後篇序

力一旦豁然得其所妙矣於是  
著量地說三篇曰行小世又  
化後篇藏諸帳中未示人而卒  
其子定興一日奉其書踵余門  
再相曰為人子者不墮家業之  
為大矣故於續之上梓請子  
以文刻于首乃受親其書

搜討摛撫揅讀約隱縮之  
地乎尺寸物以何乎抄忽包羅  
不泄纖悉無遺宛然如示諸  
掌上信算數之至大而昌  
弘之勤也何不與人共焉蓋  
去之而朽昌弘固少為也故羅

絡諸氏之異同剔決而得其中非夫貪常嗜瑣者之屬於有矚目覩其豐采在是亦揉一隅背馳乎此則中傷子昌弘昌弘既悟術而疾既寧事而終可謂不

幸矣而其子續之以數  
同志余以姻屬且嘉其  
勤曰序之以報系子首  
于時寬政丁巳七月上浣  
武陵丸山父敘叙













卷之二器用解 術名二十六條  
 磁石切要並見込様 指針塵 隱針塵 順逆振様  
 舊器之號 新器之號  
 已尺之用 圖寫之用 收器之用  
 盤繼用法 不拘器物 寸尺之用  
 分基發法 見盤大成 盤切用法  
 別卷術名異 一本術術名異 寸尺用捨  
 現差用捨 九例定格  
 規矩全書上卷術名 規矩全書中卷術名  
 規矩全書下卷術名 同流三四書之術名  
 卷之一雜品解 術名二十一條  
 量地指南後篇稿之總目次

寶曆四甲戌夏六月 村井蕪道子昌弘識



量地指南後篇稿之總目次  
 卷之一雜品解 術名二十一條  
 規矩全書上卷術名  
 規矩全書中卷術名  
 規矩全書下卷術名  
 別卷術名異 一本術術名異  
 現差用捨 九例定格  
 見盤大成 盤切用法  
 不拘器物 寸尺之用  
 圖寫之用 收器之用  
 新器之號  
 舊器之號  
 卷之二器用解 術名二十六條  
 磁石切要並見込様 指針塵 隱針塵 順逆振様  
 量地指南後篇稿卷一

量地指南後篇稿卷一  
 五

高下振樣 振分 隱銘 逆磁石 忍磁石 立覽器

小丸之用 中丸之用 大凡之用 並方維圓盤

元器之用 分度之用 渾發之用

方尺之用 並試定木 折紙之用 隨川器之用

虎法器之用 圖寫器之用 間竿之用

間紙之用

卷之三 極傳解 術名二十七條

夜中間町 船路之考 四術 並船路器械

遠里之考 並遠里之矩 北極之考

真矩之繩 二術 地形高低 三術 極中不中片極

土手陰知木高 二術 高指何分

向指真矩 二術 自服指真矩 天守櫓知居所

用山表裏 寫山形 青山形

求山斜登 知山厚

卷之四 算勘術 術名二十九條

算勘之辨 器械之制 町見術名

四町見之辨 並平町見 上町見 下町見 向町見

廣遠町見 二術 乱面町見 知遠近

知廣狹遠近 並扇矩 知山廣程 并直立

知物高 並別術 知谷深 量井深 二術

知水深 二術 折竹術 三術 量流物

量行程 量面高下

卷之五 渾發術 術名二十二條 算理渾發 並三四五之矩 圓理 二術

渾發功用

徑矢弦二術	坪詰	步詰二術	錐形
平面遠近	斜面遠近	正面廣狹	
斜面廣狹	摸望之間町	知諸高下	
極諸高下	天口	地口	天口異
地口異	覓先	覓跡	草結
水月	様脚	様体	白浪
猥獲	開扇	方鏡	

總計五卷術名百三十五條

量地指南後編稿之總目次終

量地指南後篇卷之一

勢南 處士 村井昌弘編述

雜品解

一規矩全書上卷術名 前傳ととと

○空眼 註精 ○分數 註未 ○度量 註定 ○見込 註眩

○平町 註左右 ○兩斜進退 註左右 ○前後進退 註前

○不動知遠 註規矩 ○隔沼河 註正當 ○極中不中 註

○寸尺用捨 註雜 ○算法用捨 註雜 ○三四五矩 註

○直極 註居 ○知山高 註谷心 ○知谷深 註量深 ○知



兩山差註兩山註月知方 ○ 知谷幅木丈註明山註同知方 ○ 知地形高下註極

○ 指望之間註無的註間方 ○ 間竿打樣註器註解 ○ 座而地取註暗指註方

○ 直之繩張註極註傳解 ○ 陰之目的註二地註重開方 ○ 知前面廣註正註面註方

○ 夜之見樣註極註傳解 ○ 磁石振樣註器註用解 ○ 磁石見樣註器註用解 ○ 城

圖註四知註開方 ○ 國圖註極註傳解 ○ 遠里積註極註傳解 ○ 北極積註極註傳解 ○ 船

路積註極註傳解 ○ 道具之制註雜註品註解

右上卷術名の目錄なり。是を以て大畧量地術尽せり。之  
も古來其師範する人謾小秘奥と傳人として悟りて教海  
の式小前中後の三等となりて同術と粗精奥三回小講習せ  
しと見へり。此旨予を取用せざる處なり。之とも姑く古法乃

書面小隨て此小抄出す。覽者此趣を察とせし

一規矩全書中卷術名後傳別傳

○ 平町註左右註正開方 ○ 前後進退註前後註當開方 ○ 左右進退註正註面註方

不動知間數註規矩註大元方 ○ 大真矩註神速註大盤方 ○ 隔沼河開註正註當註方

○ 極中不中註一知註雙開方 ○ 中不中片極註極註傳解 ○ 寸尺用捨註雜註品註解

○ 算法用捨註雜註品註解 ○ 三四五矩註渾註發術 ○ 知山之高註谷註四註重高方 ○

極直註立註盤方 ○ 進退之山註量高註術方 ○ 兩山之差註兩山註方 ○ 谷底

知地幅註同知方 ○ 指望間町註無的註定間方 ○ 坐而地取註開指註方

間竿打樣註器註用解 ○ 直之繩張註極註傳解 ○ 陰之目的註地註量開方 ○ 知



一 同流三四書之術名異

- 用合度知高註極 ○山用表裏註極 ○責山同 ○寫山同
- 知山厚同 ○天守櫓知居所同 ○向真中日陰指同
- 聚不盡同 ○求山登垂

右同流三四書の術名異ハ好事の者の所為ありて一向取用所なりといふも前小云る意味なるゆへ小是小贅す

一 別卷術名異

- 寸尺之用註雜 ○已尺之用同 ○折紙法註器 ○見盤大
- 盤切法同 ○盤繼法同
- 成註雜 ○盤註雜

右別卷術名異ハ往々前卷の標目と同じといふも其名異なりをりて是小贅す

一 本術術名異

- 圓理渾発註渾 ○算理渾発同 ○歩誥同 ○坪誥同
- 方錐同 ○平錐同 ○山形同 ○菱形同 ○片狹同
- 徑矢弦同 ○渾発之働同 ○遠近平町同 ○遠近筋違同
- 前面廣狹同 ○望之間同 ○高下同 ○極高下同
- 天口同 ○地口同 ○覓先同 ○覓跡同 ○様脚同 ○様
- 白浪同 ○水月同 ○草結同 ○猥獲同 ○開扇同

○方鏡上

右一本術術名異ハ規矩全書二二三の書の目次小隨て是と記す見者標目の混雜を誣るることナリ

大凡此六件の條目百三十餘前篇四十六條後篇八十四條ハ規矩全書其

外規矩術同流三四家の書を以て校量して各均し然る也

有餘とば不足とばを補ふ猶三四書小洩るること

とは不益の目次といへども捨ずして此後篇五卷中に論ず是

學者をして他の異目りりても畢竟無益の説なりことを知ら

り為なりと察すべし

寸尺用捨

凡町見術ふらぬを里町反間を量るハ皆渾癸の事なり寸尺小拘ることナリ然も寸尺ハ里町反間の基本なり敢て

捨るふらぬ故小寸尺用捨と云へる用捨とは用ふ非す

捨るふらぬを謂なり其理と委く云へ曲尺にて量時

ハ厘毛以下不尽小出來て眼力に及ぶことナリ渾癸を

量るべしハ番算なり故小割餘といふことナリ故小渾癸を

以て遠近廣狹高低も小計り知ることを町見術の常と云

ふることナリ丈尺長き物を計るふ至てハ渾癸のこと又迂遠

をて曲尺を用て量るの速なるもハ此條と掲る

算法用捨

算法用捨とも又寸尺用捨の理小同ト町見の支業に

於て算法を用いずとも害をたふ似たりさへも算法に

數量の根元なり捨るにあらば因て用るふあらば捨る

らば假令ハ渾癸をて遠程一里の開除を求るも其里





紕町數則不論丈尺 遠則捨丈尺  
 紕里數則不論反間 遠則捨反間  
 紕大里則不論町里 近則捨間  
六里捨里  
小里捨町

分其發法

古法云分其發法といふ。今用る間町里の本をいふ  
 となり。古云粟以小粒發分分即發寸尺間丈町里  
 也云云

間 昔ハ六尺五寸

町 今ハ六尺五寸  
六十間を古法三千六百歩を以て田畑の二町の積と其外面を以て道規の町と

里 昔ハ五十町を用ひ今ハ三十六丁を一里とす唐路ハ六丁を一里とす

地周 九万里但唐路を和路面一万五千里也

地徑 是大地塊の一周なり  
二万八千里なり但東西の貫也於南北三千里の有延故為鷄卵

地度 昔四十二里余今四十一里半六町なり  
各和路なり天地共三百六十度を用ひ

右地周地徑地度の三條無替の言たりといふも古法存せらる故小是小贅す

見盤大成

是他流小秘する所の一名目なり。然ども此法術毎小備ハ  
 せり。何ぞ秘訣といふや。量地指南前篇中卷下  
 卷每術を見て考ふる

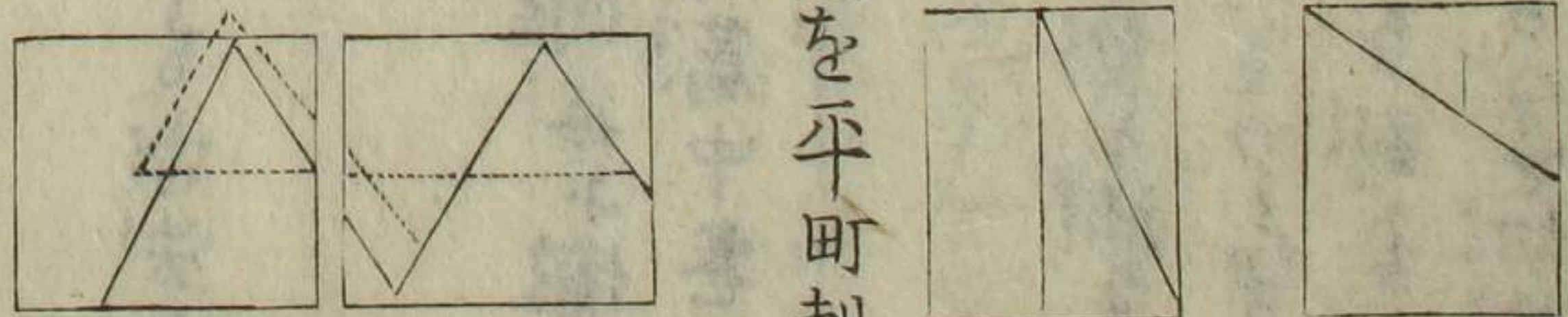
盤切用法

盤切の法割盤法のこゝして總て盤面を約やく量る法なり  
 占法小山谷割盤平町割盤二方なり。先山谷の術をつとむる  
 假令平町を求る丈數百丈後見込の五を割ける  
 くれ。割合せかれといふ。留より百丈量る。残る分を切捨

三と量るかるも。是山谷割盤の法。又平町  
 筋違等伐勤ると見開場小至つと見通  
 小間るといふは。盤の面の角を見通を  
 みるも成難し。其時ハ盤の向の端條會  
 にならずして向も口出来る故手前より  
 真矩を取て盤を割て條會を作量るべし。是を平町割  
 盤といふ

盤繼用法

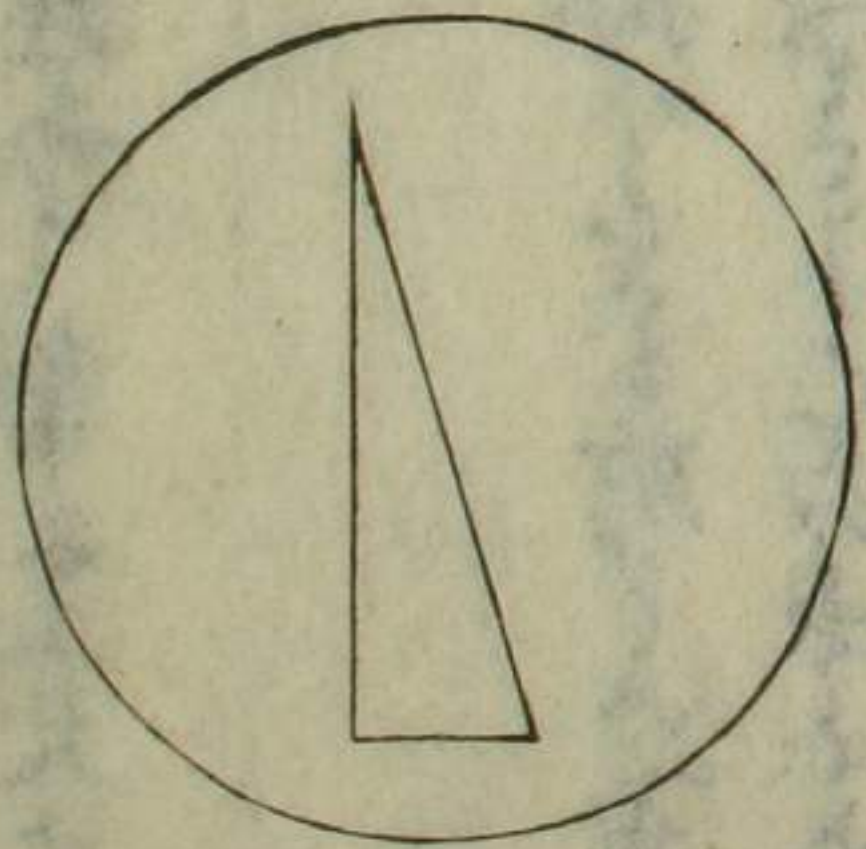
盤繼といふハ遠境累隔などの業を勤て盤一面を  
 摸し足さる時外の盤を併せ繼て用るをいふなり  
 前篇より予が所謂併盤といふ是なり。前條より  
 述る所の割盤法。又此條より云々の併盤法共に



前篇小委く出たもも爰に別傳の條目ハ秘訣なりや  
 記分故小贅言を述て學者の問を塞ぐ

不拘器物

器物小不拘といハ町見術の諸器物有合さるといハ何ふか  
 らハ外面平なる物を用て見盤定木のどくく。其用を  
 かくといふてあり。或ハ定木あつて見盤をいふ時ハ膳  
 盆の類もて用也。但圖のどくく其中めて見込見通を  
 みて墨を引といハ盤面小其形出來する  
 かり。或ハ盤あつて定木をさす時ハ糸と  
 針とを用也。或ハ忍等を求るといハ器  
 物小拘る時ハ萬物障となつて求がじ亦  
 器物を放る意ある時ハ其用全かず。その



地ふろれある萬物を即道具に用るの理あり。常ふ工夫す  
る。是が爲小收用器なり

寸尺之用

寸尺の用とらふハ大凡寸尺ハ規矩術の拘りざる所とい共  
又用る所なり。今茲よりハ寸尺を用ゆべきこととす也  
其故ハ一本術用法小云く。二尺と五寸と。種の口を四倍す  
といふなり。意ハ二尺を五寸とすむ。方尺二尺を五寸の長と  
て心得しめり。種の口を四倍すとハ渾癸也。種を夾むる  
口を四倍すべしとめり。是より方尺も渾癸も俱小同寸  
分ふかるぬ。二尺乃方尺を五寸とすむ。時種を夾む  
る口二分あり。是を八分の口よ作す。二尺を計ること。理の當  
然なり。但しこれよりハ傳法也。門弟子として愚するもの

お。ハ渾癸の口をひろくかりて量むば量むやゆさ故に  
か。の。縮るなり。其終ふ二分の小口を長と方尺二尺  
を量むば厘毛に至て治定の分らざる小依てかり

已尺之用

已尺の用とらむは已尺といハ己の身体を悉く寸尺とかり  
となり。意ハたぐむ己が三趾ハ一間たぐむ己が腕尺ハ二尺五寸  
たぐむ己が指尺ハ五寸たぐむ己が跨尺ハ四尺八寸たぐむ  
己が一尋ハ五尺二寸等兼て設置をのみ。其外空眼先知乃  
類をいふなり。而後作法の。堅木をなして其業を發行  
す。是一本術大要至極の全法なり

圖寫屈伸之用

圖寫屈伸の用といハ古傳云分間の圖を屈伸するは寸

尺を用るなり。角寫と意順の矩を用るなり。蓋至極の角  
寫の秘傳あり。或ハ三分一。或ハ四分一。亦ハ何割等増減ハ寸  
尺小拘ず。渾癸を以て寫す。速うかり。但其かたふ  
以て働。時宜小。口傳云云

又或傳云。国圖城圖等と延縮する。ハ假小紙の方より。ハ  
分度を以て。方角と地幅を求め。野帳と

仕立て寫取る。あり。亦日本の国圖

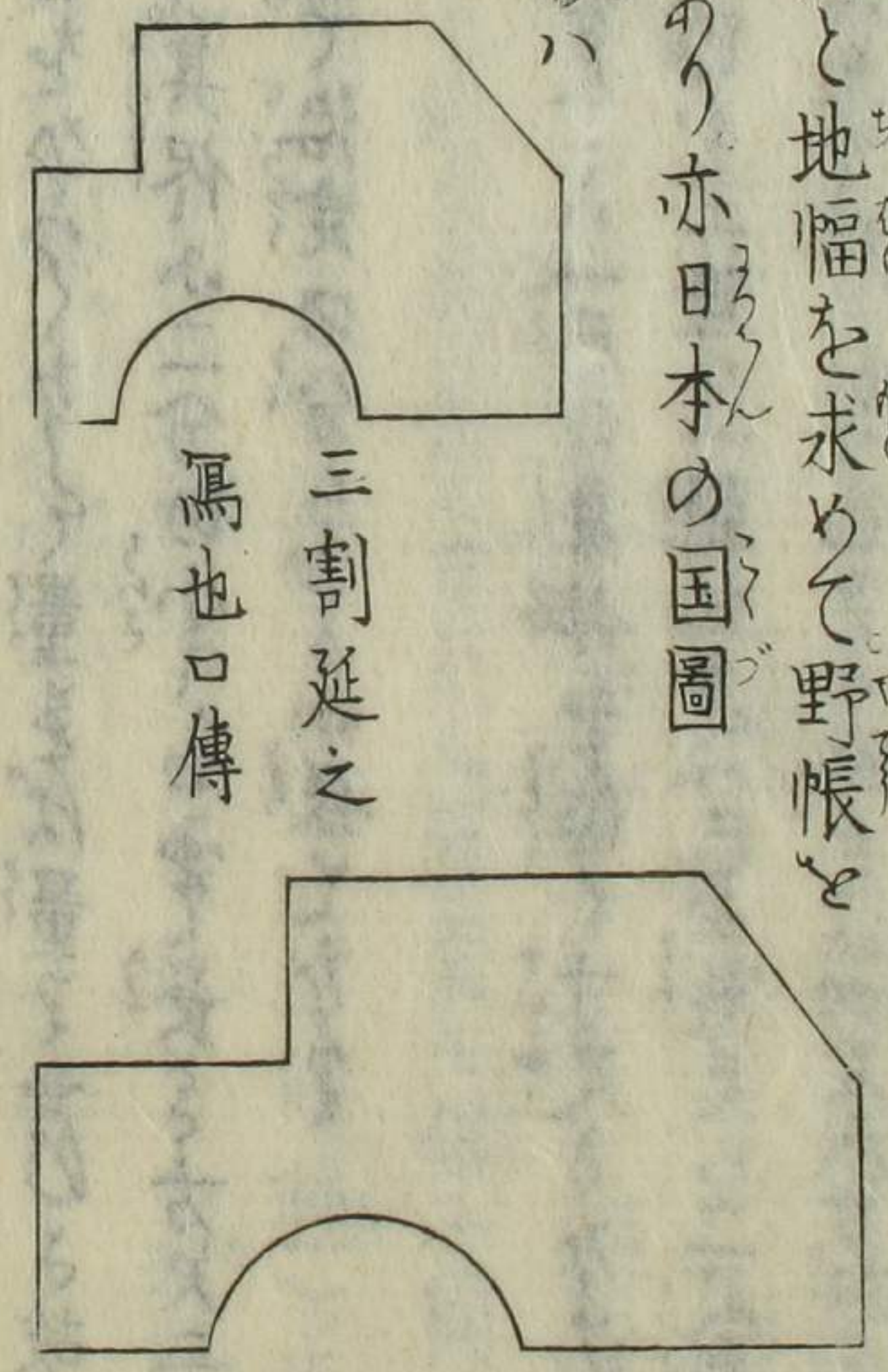
等の矩小合さる形ハ

假小步割を用

ひてうけ。とる

事。あり。とる

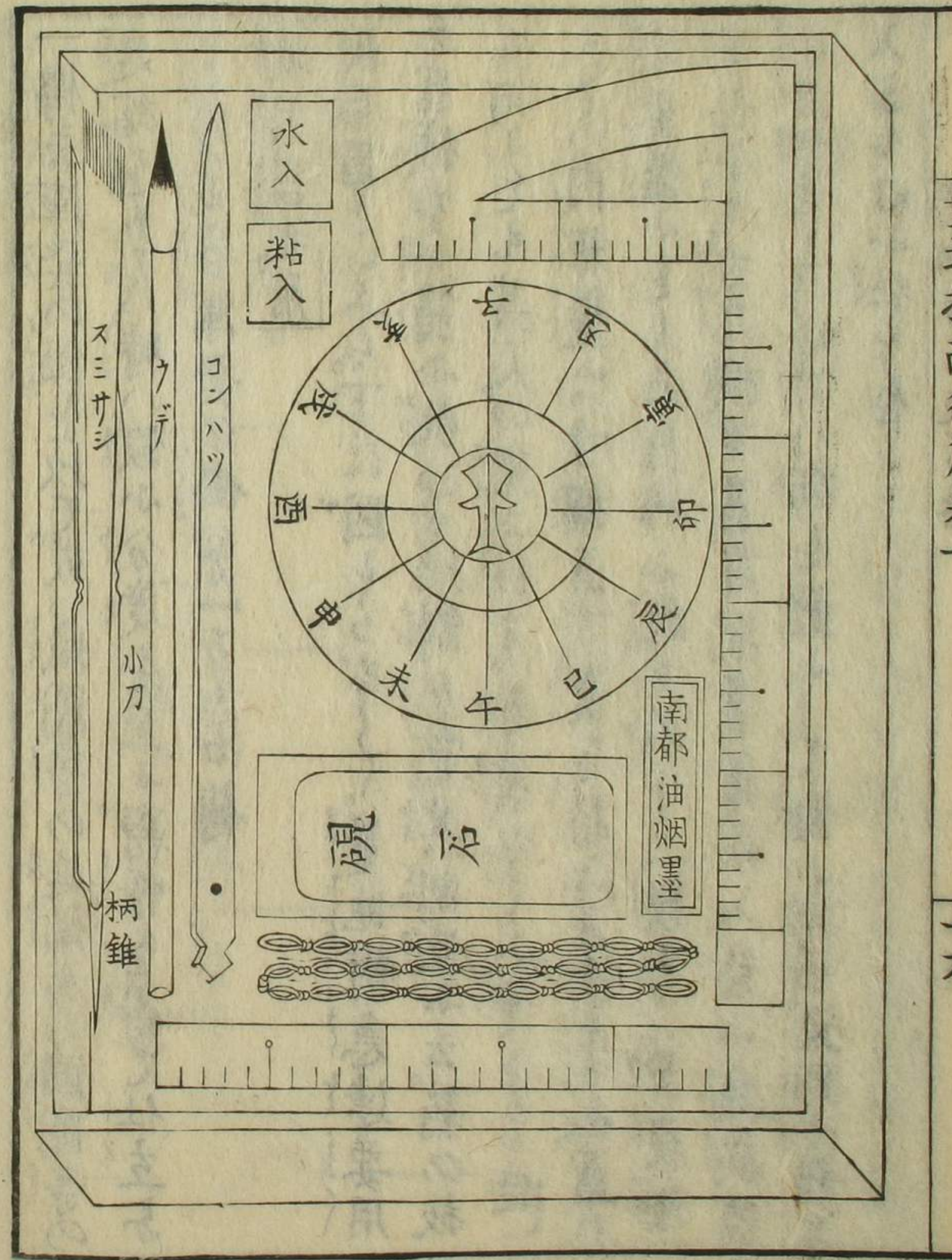
口傳あり



一傳云。渾癸の働を以て。或ハ城圖等の延縮亦ハ国圖等の  
延縮をかり。時ハ假小分度を用。野帳を得て仕立て  
し。各渾癸の働第一なり。口傳

收用器之用

收用器といふ。下に図とる。量地術急速要用  
の器械を一箱小收。此制あり。其制法ハ云。箱の板  
を何とて。其人の望小任す。春慶。小塗。佳  
大。ハ内矩。豎六寸。横五寸。蓋を指入。蓋ハ  
即量盤。小。此内小收る品。十二種あり。分度。矩  
渾癸。小。方尺。横手。墨。硯。墨。筆。水。入。粘。入。紙。裁。の  
小。刀。等。小。刀。ハ。柄。を。銳。め。て。錐。小。用。也。又。別。小。錐。と  
入。る。も。心。小。任。と。る。



舊器之號

- 貨度轆輪
- 貨彈覽天
- 圓盤
- 星刻
- 以寸多羅比
- 復寫
- 羅宇坐
- 漏墨
- 意順矩
- 方圖器
- 星尺

十六方位あり摸寫の器なりといふ  
 按ずる新制の小丸大丸等の用法不同なり  
 天尺を量る器なりといふ  
 同上其用不辨  
 星上圭とも名くといふ  
 船中の器用とも其法知れど  
 摸寫の器  
 十六方位の磁針なり  
 新制の墨筒は均しくといふ  
 摸國の器といふ  
 同上  
 天尺を量る器なり

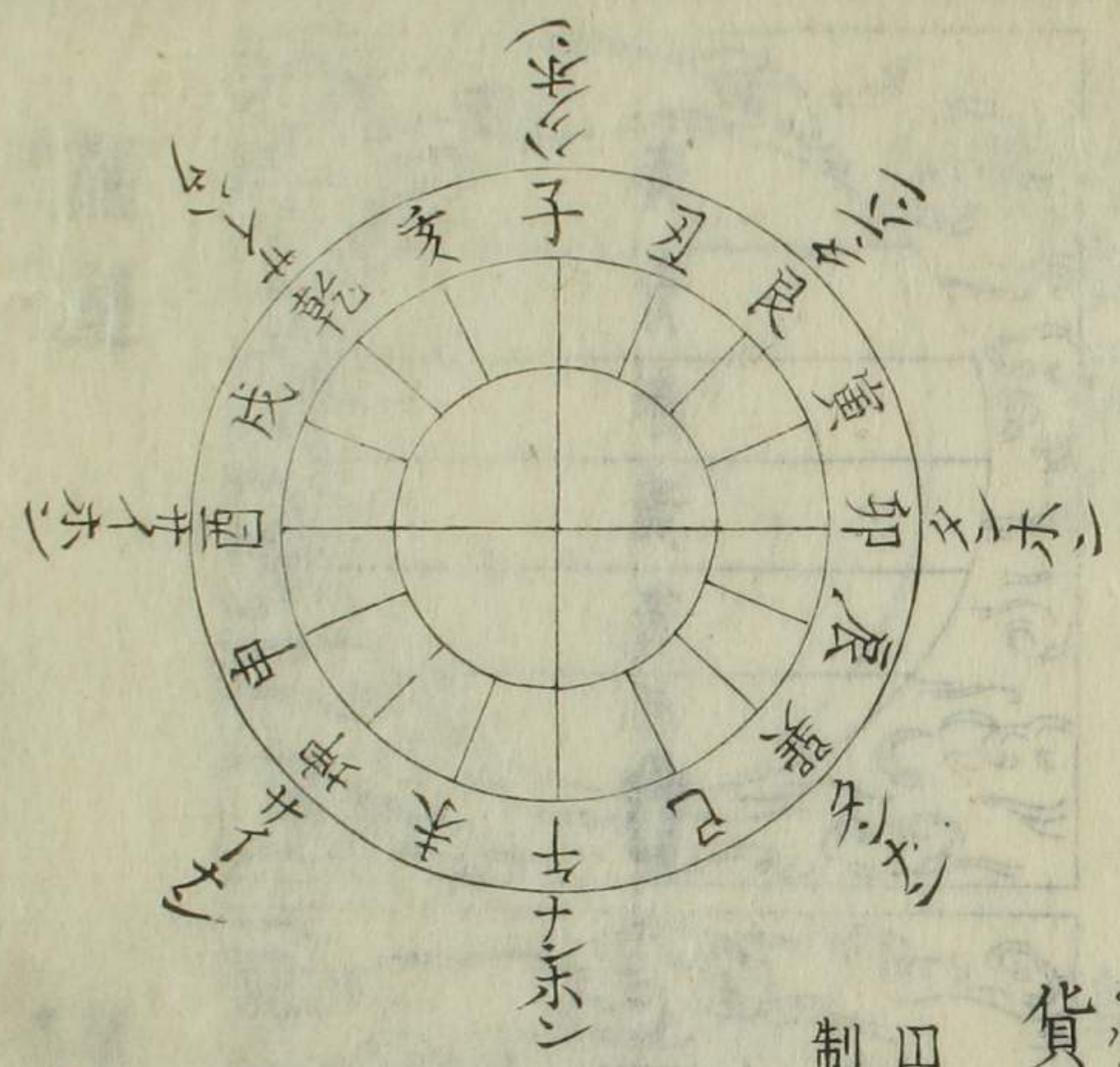
日刻

日影を量るの器なり

右十二種ハ粗予が見聞する処なり。其の品阿須多羅以  
 与加呂士惠牟須加呂士加苗太加路兜渾癸寸天經天緯標  
 木など云々の有り。其制法と不辨故に圖せ。又羅經方針指北  
 方と云。古所謂羅字坐と云。吾邦當時用る処の磁針  
 小同なり。抑此術吾邦流布の始粗此旧器物を用ること有と云  
 とも異邦の人の其便利と云。吾邦當時用る処の磁針  
 より其器物廢して吾邦今の量地者流今に於てハ旧器の号と云  
 知者なり。此故に初学の者往々其器名と聞傳て怪と思ふと  
 云。其疑惑と散。其用法の失やことを知るる爲に爰に圖  
 を著して當流の學者示す

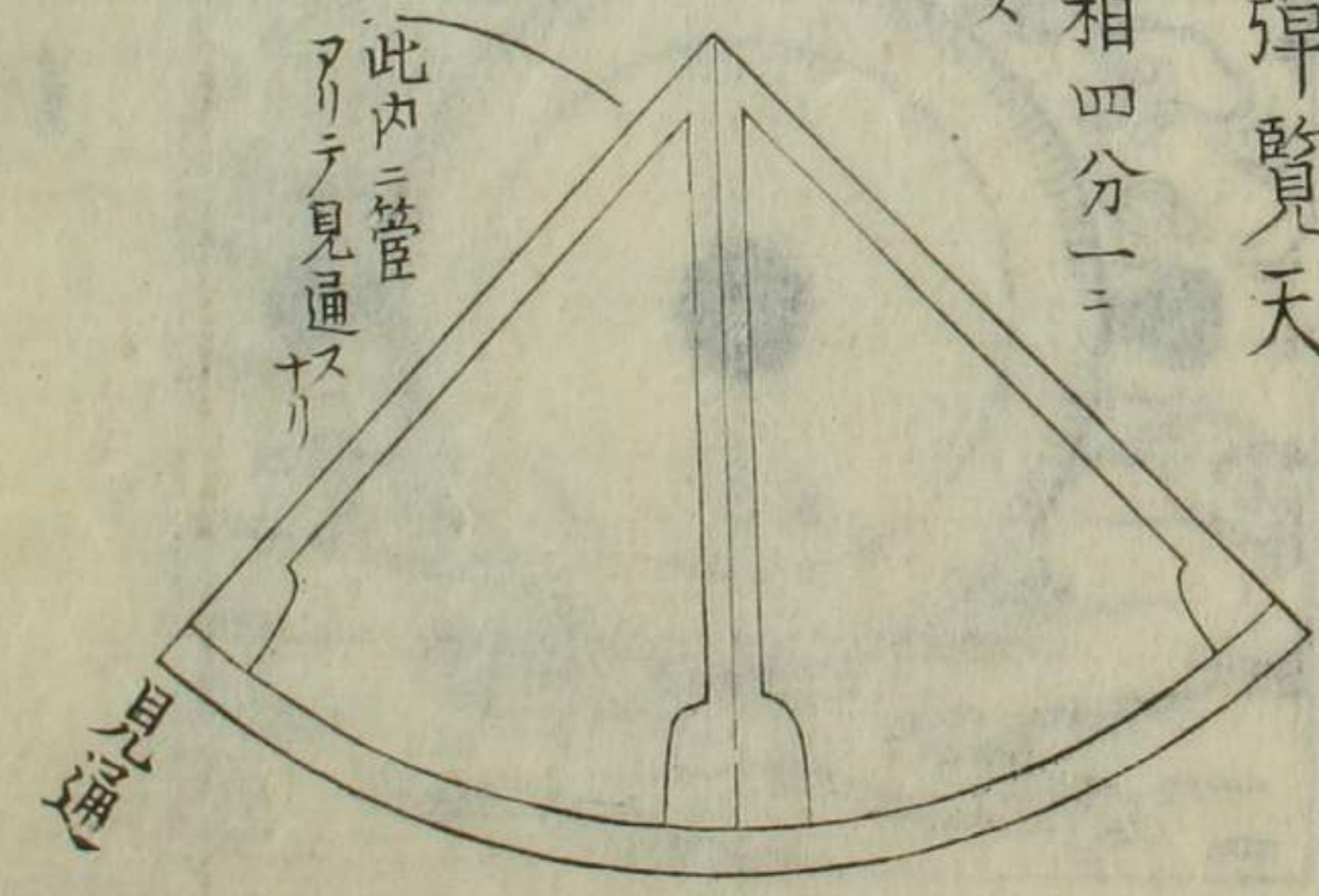
右の器械其名り〜と當時の用ひす

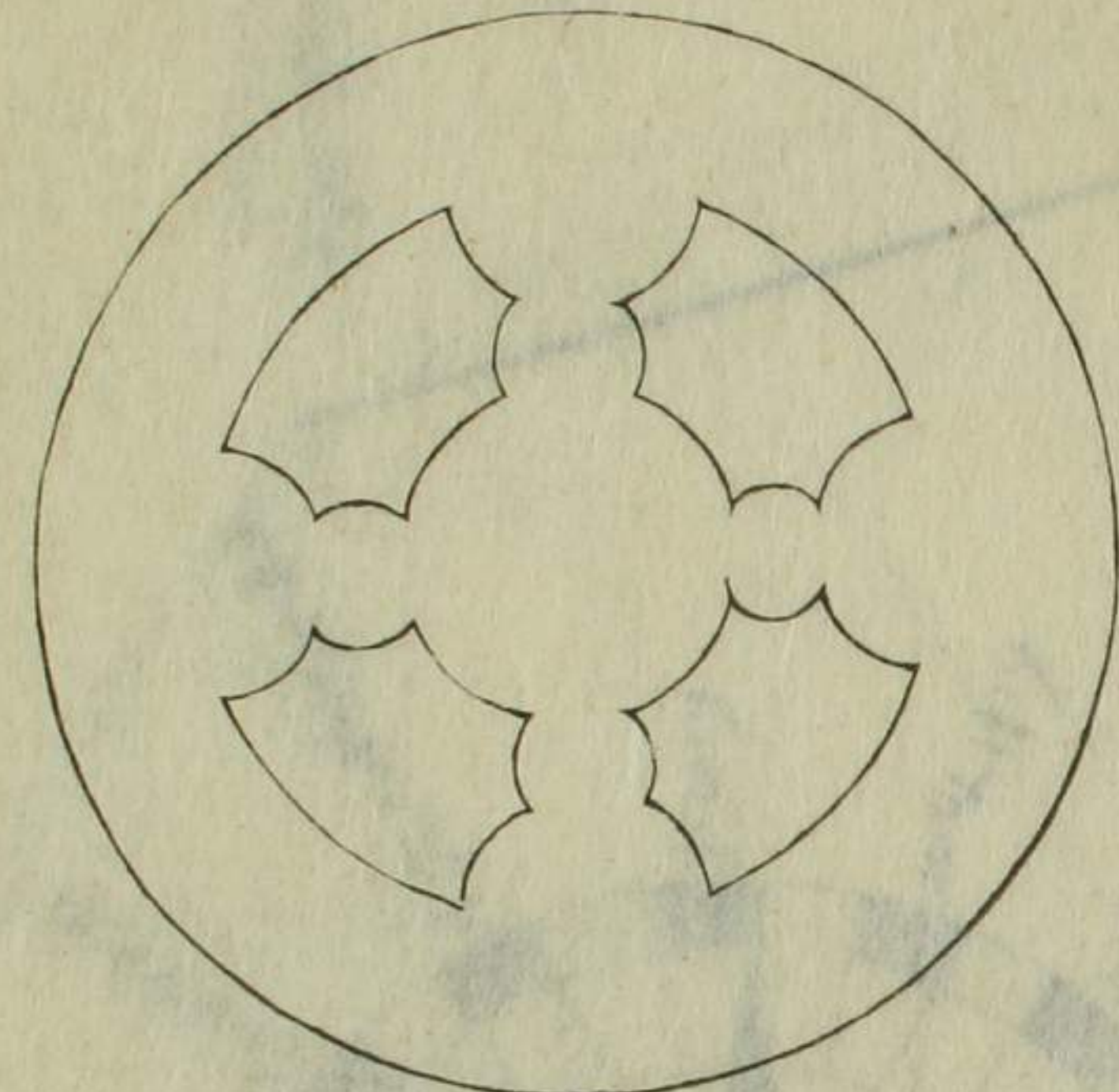
貨度輻輪



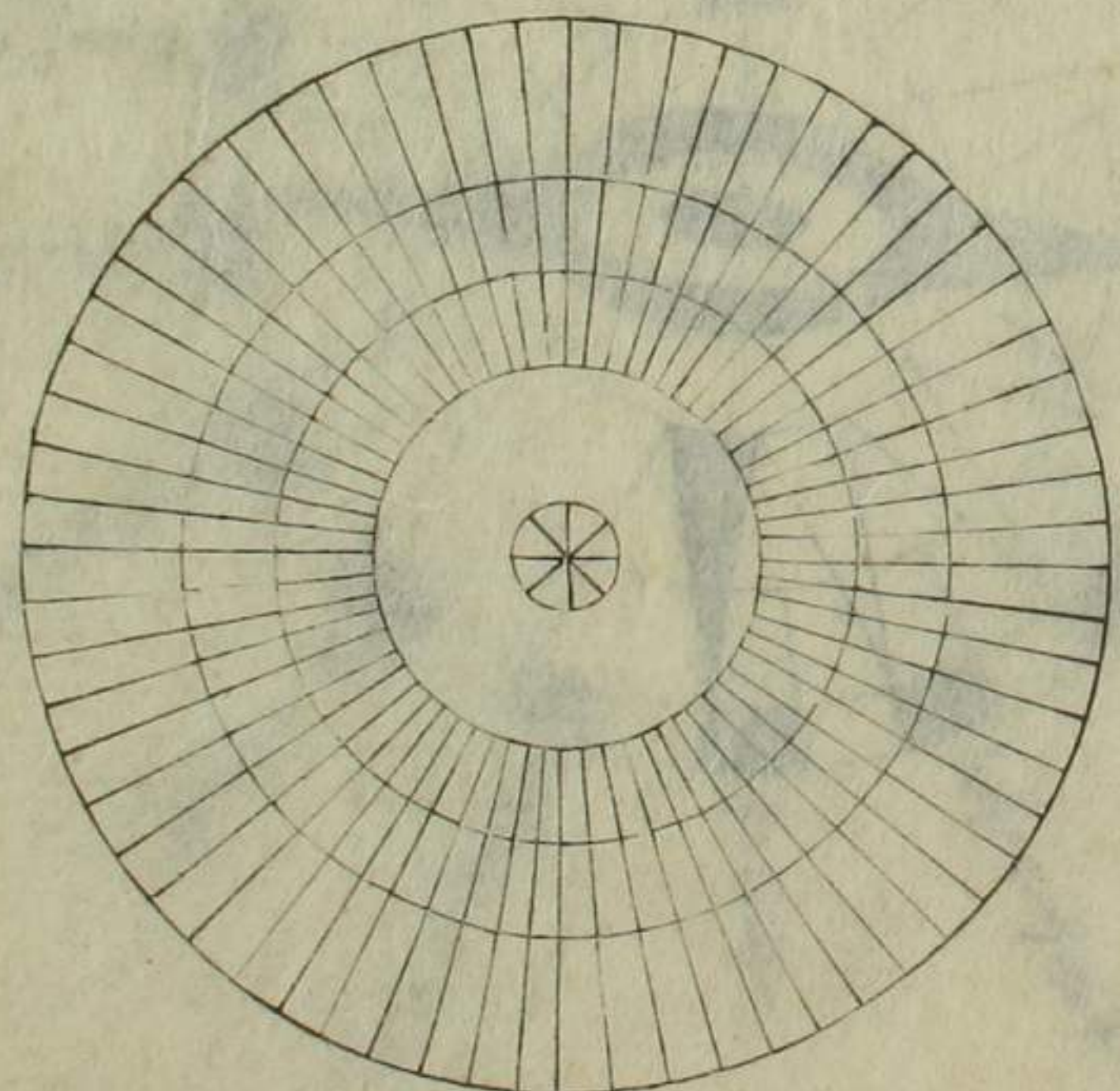
貨彈覽天

四相四分ニ制ス





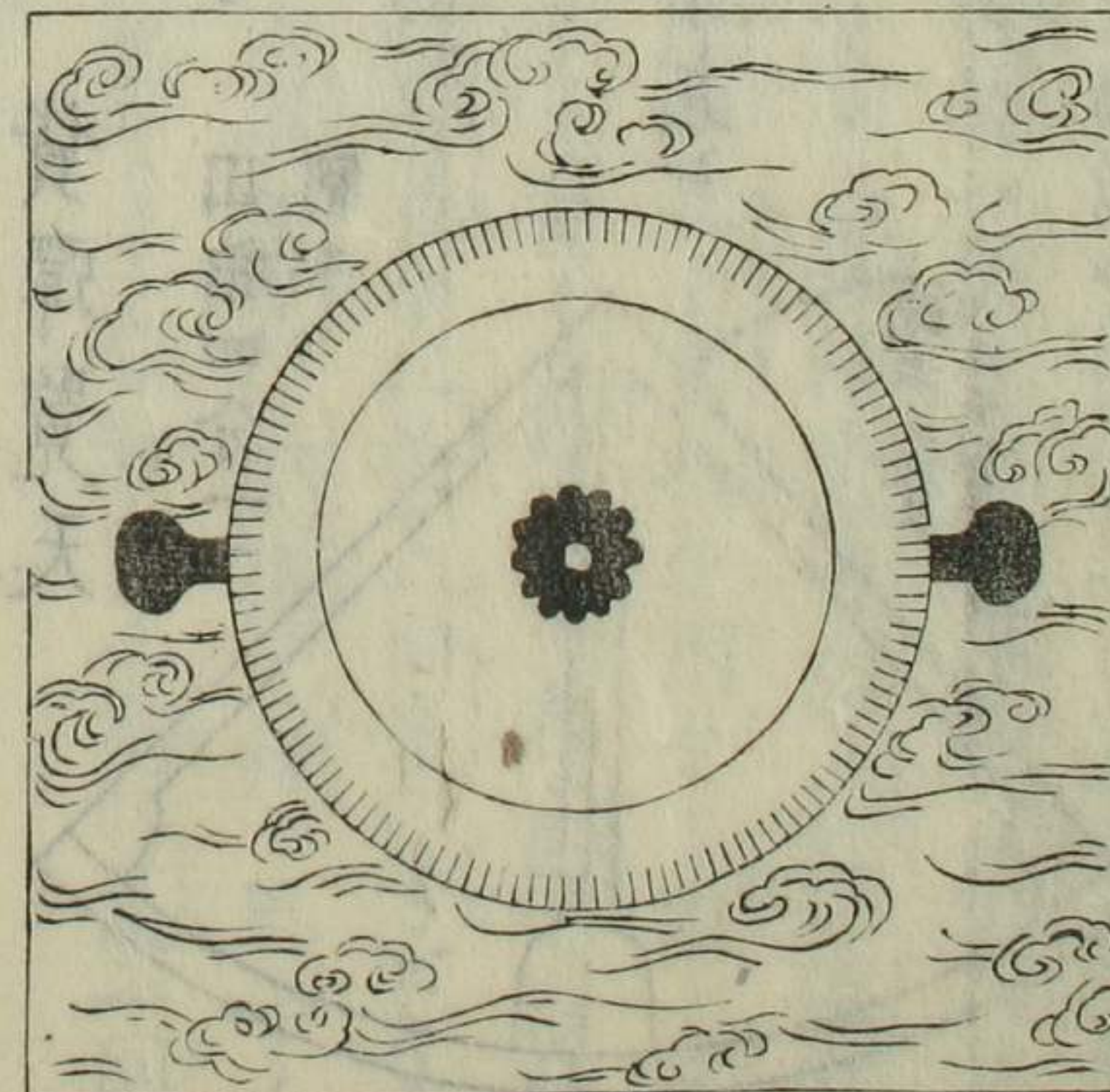
以寸多羅比



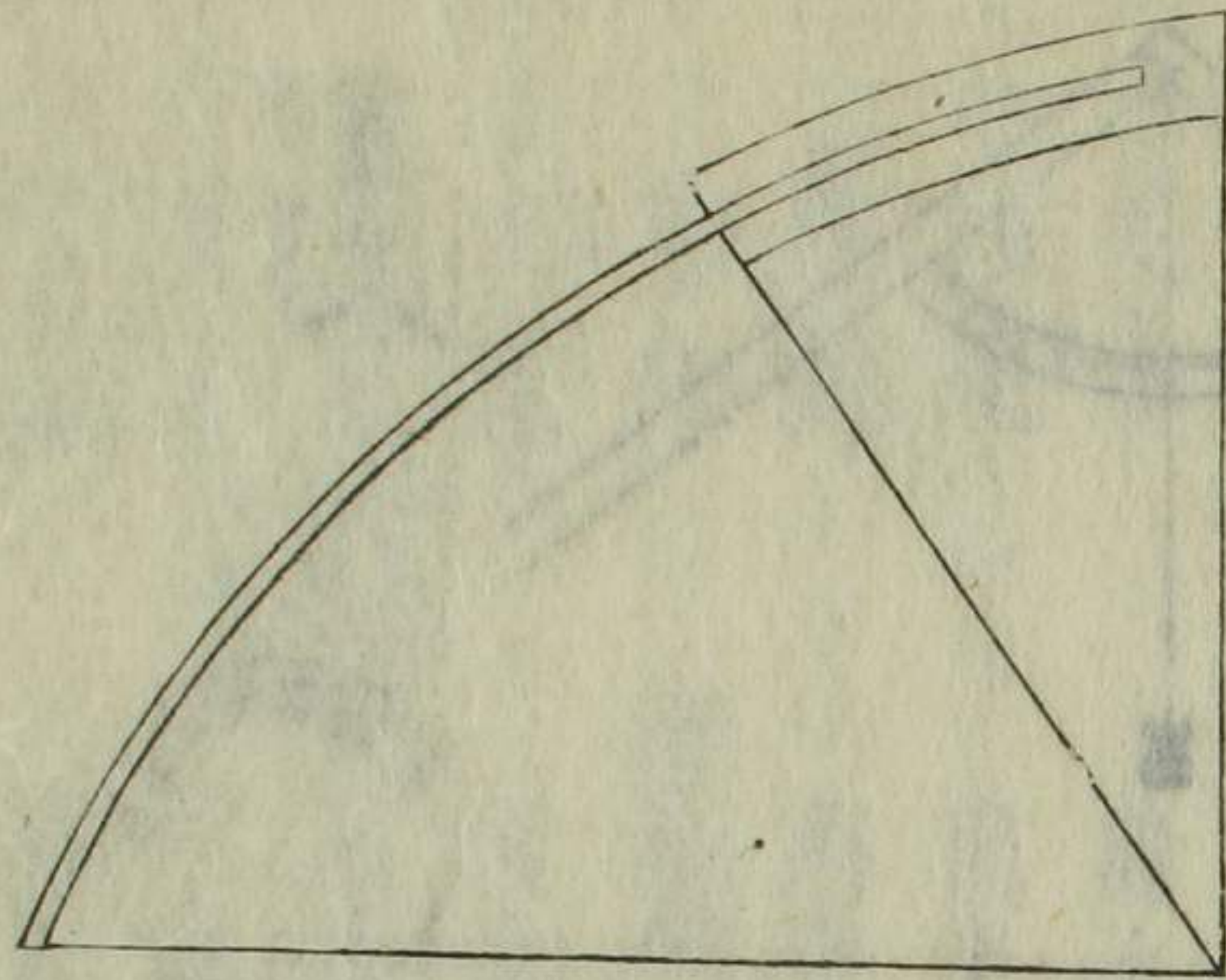
後寫



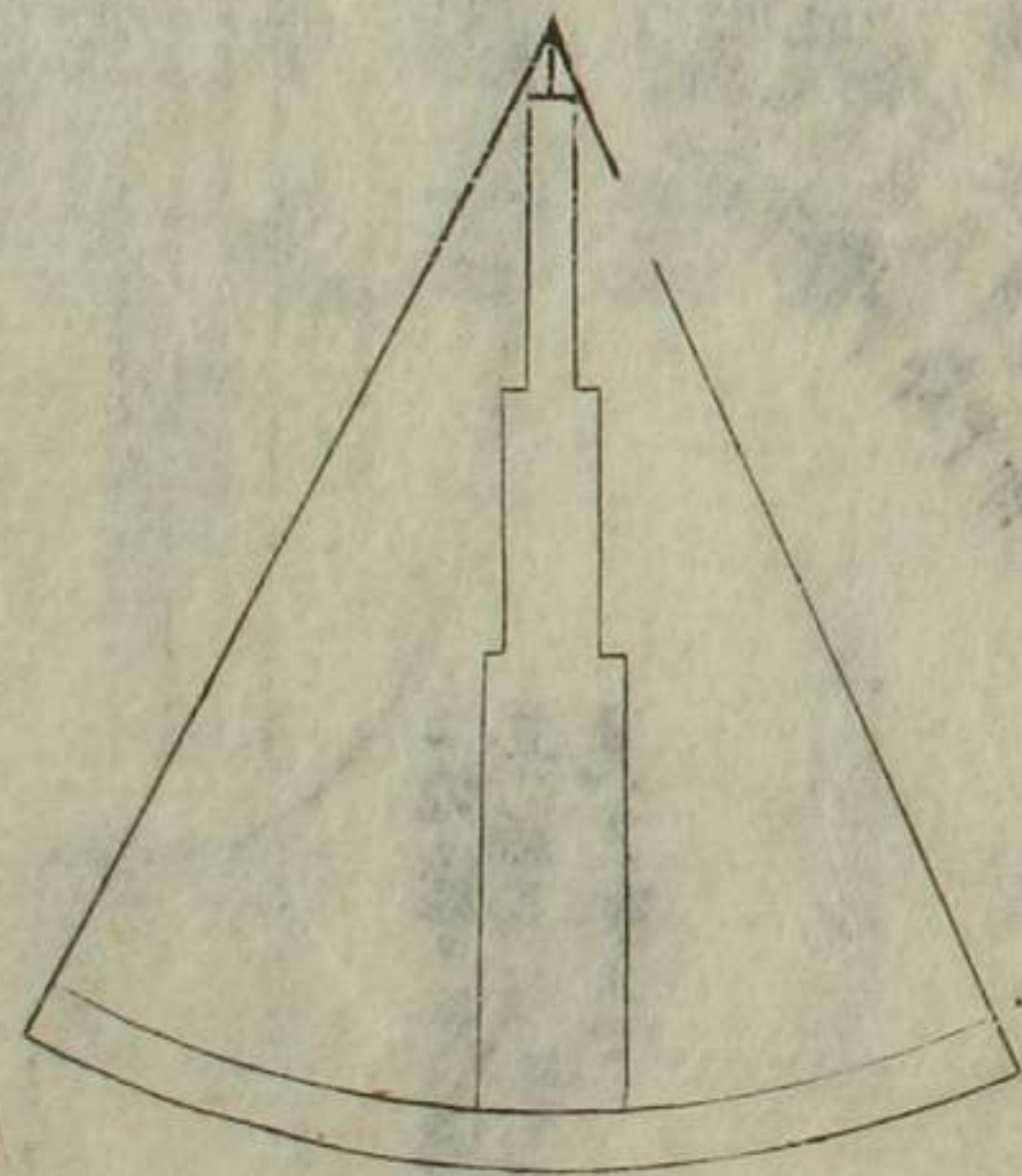
圓盤



星刻



意順規



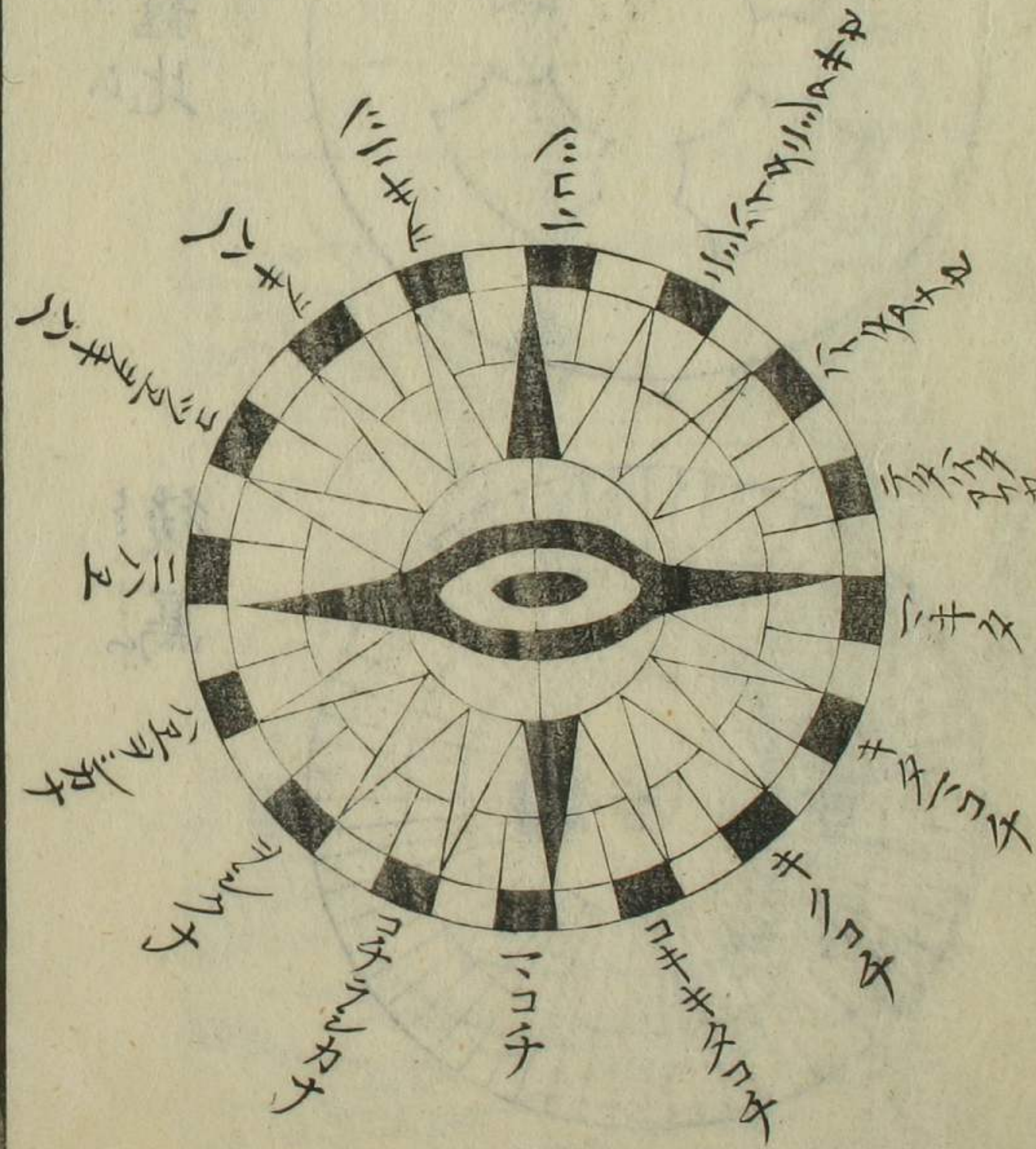
方圖器

意順規

方圖器



漏墨



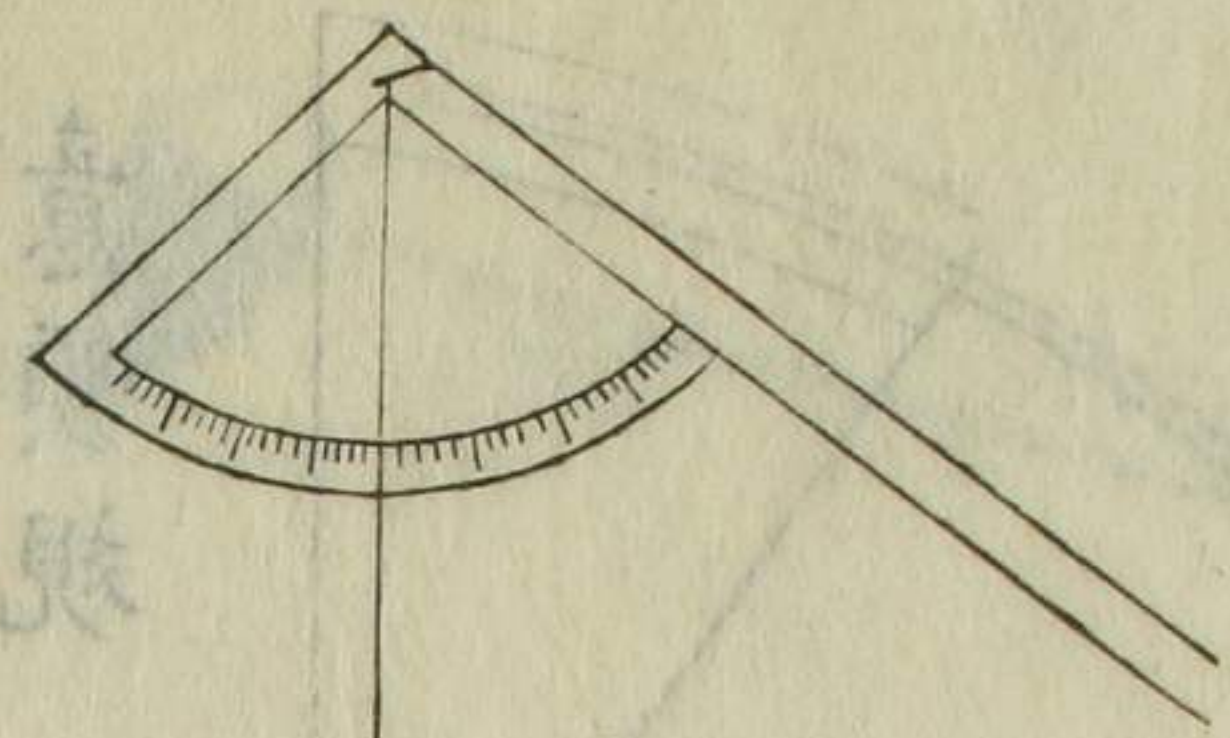
羅宇坐

羅宇坐

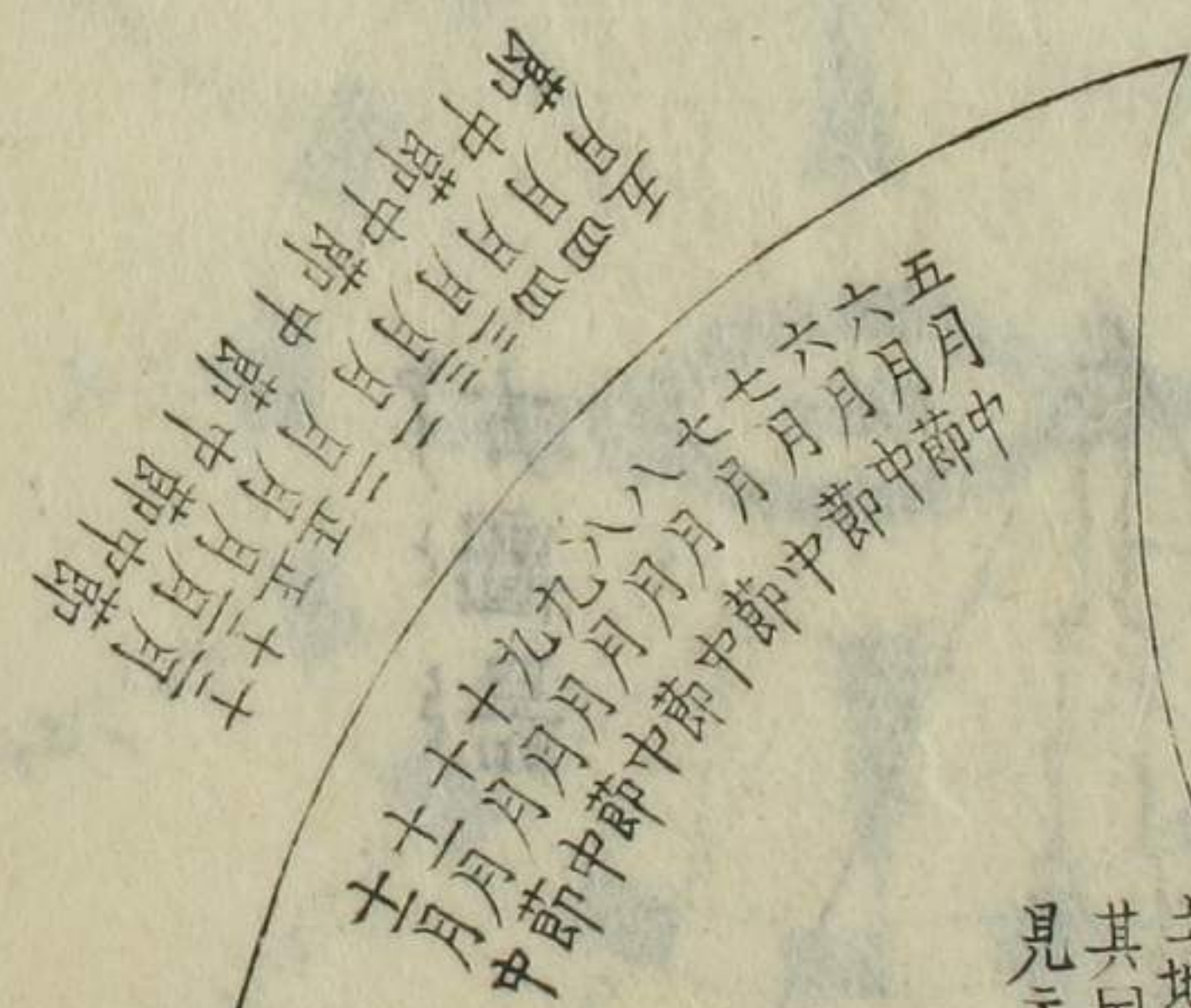
羅宇坐



星尺



日刻



土地ニ因テ影違フ  
其国其所影ヲ  
見テ制スヘシ

一新器之號

- 渾發 出前編又量用解 見盤 同上
- 釣玉 同上 垂針 同上
- 定木 同上 間繩 同上
- 錐繩 同上 和久 同上
- 標檝 同上 間棹 同上
- 管棹 出器用解 輪棹 同上
- 元器 同上 磁石 同上
- 忍磁石 同上 小丸 同上
- 臺金 同上 大丸 同上
- 分度矩 同上 虎法器 同上
- 圖寫器 同上 隨川器 同上

量地指南後篇卷一

二十一

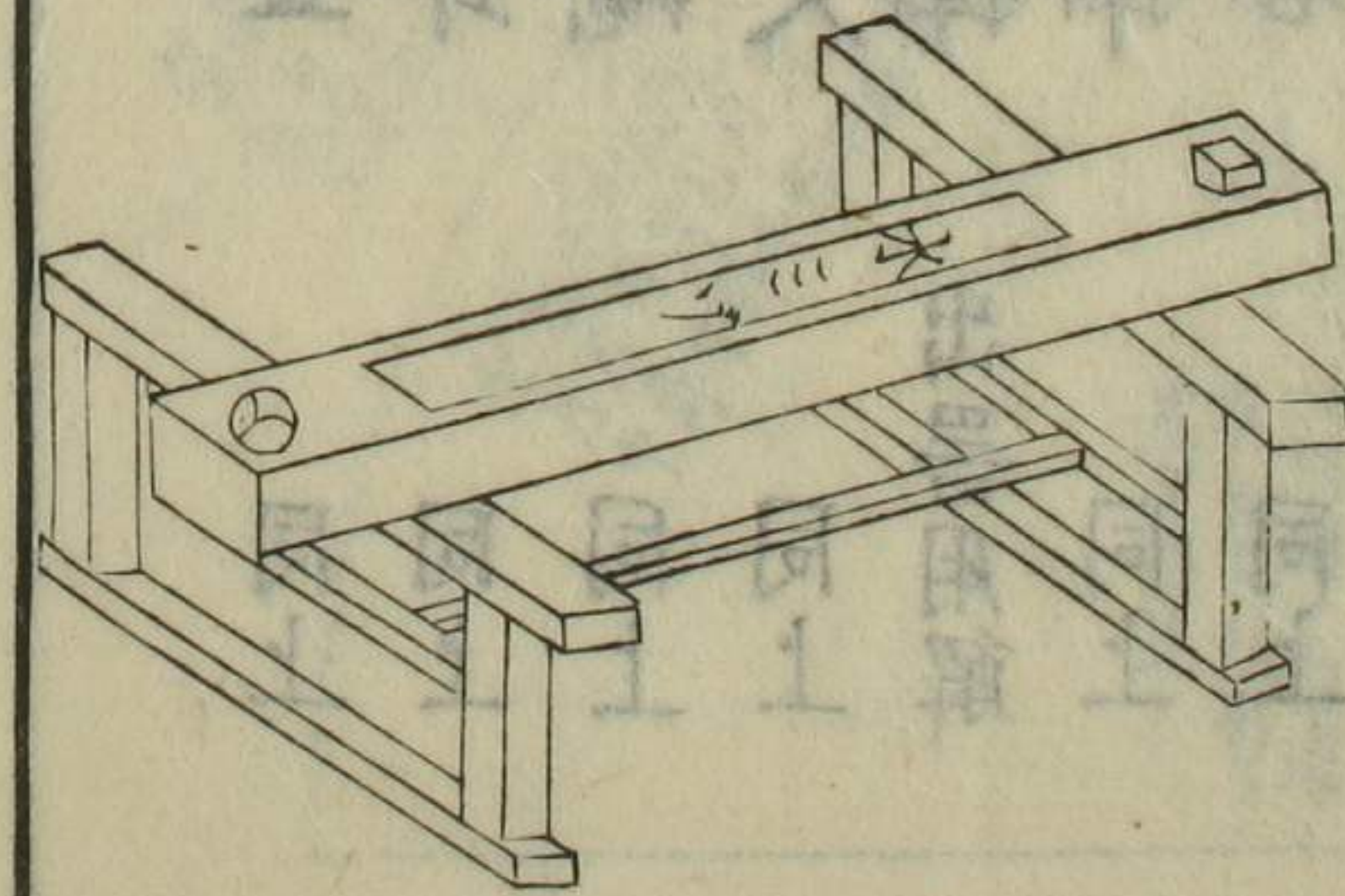
○方尺 並試定規 同上 ○折紙

○火卦 出極傳解 ○湊渾筈

○度數 同上 ○遠里矩

○收用器 此章出前件 ○水平

水平の制角木を以て。長六尺横五寸。闊木の。制。表面。長四尺。横三寸深と一寸五分の水溝と穿ち。前後。目當。高五寸。此水溝。水と盛る。尤。水平木。下。臺と設けて。随分不直。に。臺。上げて。下げ。で。方を。極。臺の。高さ。好。大方。高さ。



同上 出極傳解 出于此章

二尺より二尺五寸を吉と。委ハ圖を見て知るべし。

○水準 出于此章

水準の制長四尺横五寸厚と四寸の臺木。高さ三尺

方三寸の標木と立る。尤。此標木と左右より助木と

施して。斜。を。見。て。知。る。

扱標木に糸糸と。委ハ圖を見て知ア

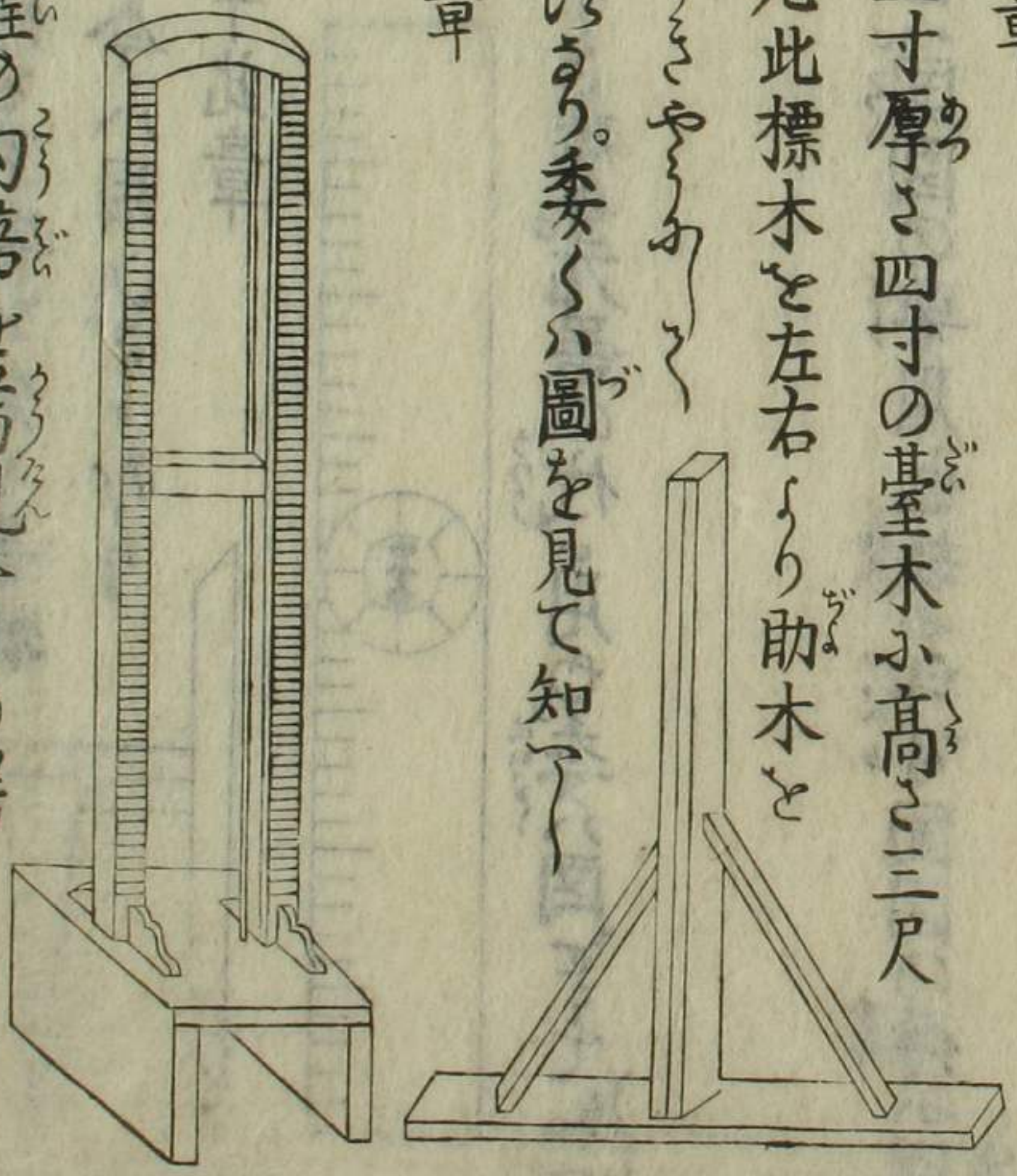
槽 出于此章

槽の制真鍮を以て

作る左右小曲尺の星

と。器の桁上。載。て。高。程。の。勾。倍。を。考。見。す。の。器。

なり。今。專。に。こ。の。器。を。用。ゆ。委ハ圖を按。て。知。る。ア



○ 膝

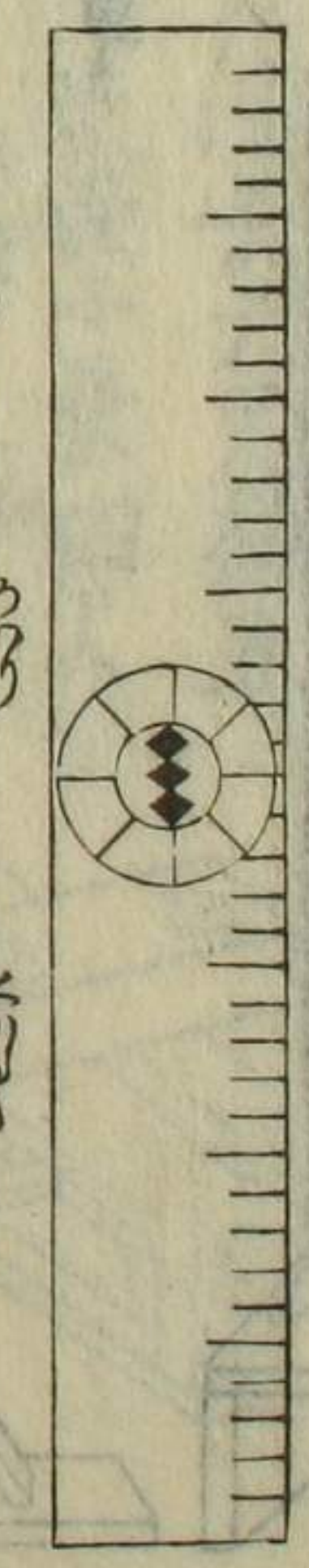
出干此章

膝の制真鍮を以て作る不安と定る器物  
なり。不便利ゆへ今ハ用ひざるなり

○ 板定木

出干此章

板定木の制長一尺



五寸横二寸真中に

小丸を彫入る元器を時小元器の代用也委ハ図を以て知べ

○ 種竿

○ 相圖幟

右種竿相圖幟二器ハ国図の要用也故ハ印可国図の傳ハ図

量地指南後篇卷之一終

